ニューヨーク補習授業校だより

平成２７年度５月号
校　長　青木　正彦

＜　新校長、新教頭　着任しました　＞



平成２７年度が始まりました。皆さん、新しい目標ができましたか。

新しい目標と言えば、私の娘が、小学校一年生の時に立てた目標を紹介します。
その前に、私には、子どもが５人います。男の子が二人。女の子が３人です。
長男は「一生」という名前です。長女は「花梨」と言います。次女は「もも」です。１番目の子が「いっせい」で４文字です。２番目が「かりん」で３文字、３番目が「もも」で２文字、なので、４番目の子は１文字にしたかったのです。男の子だったら、「だ」。「青木だ。」雄々しいですね。女の子だったら、「よ」。「青木よ。」可愛いですね。すいません。話がそれてしまいました。

新しい目標のお話です。
二人目の女の子「もも」が小学校の１年生になったとき、クラスのお友だちと一緒に、みんなで「将来は何になりたい」という目標を書いて、教室の壁に貼ったのです。
最初の授業参観日に、私の妻が、母親として、見に行きました。
男の子のお友だちは「野球の選手になりたい。」「サッカーの選手になりたい。」
女の子は「お花屋さんになりたい。」「お嫁さんになりたい。」とか、ところが私の娘「もも」は、「馬になりたい。」
家に帰って、私の妻が、ももに聞きました。
「あなた馬になりたいの。」「うん。」

「どうして」「馬がいい。」
「どうして、お馬さんがいいの。」「・・・好きだから。」
「どうして、好きなの。」「・・・馬だから。」
「他にもいっぱあるでしょう。犬とか猫とか、豚とか、牛とか。どうして・・・」
「・・・かっこいいの。すごーく速く走れるから。」
ももの目標は、「お馬さんのように、速く走れるようになりたい。」でした。
　ももは、少し体が弱かったのですが、お馬さんのように走れるようになりたいと、それから、一生けん命に、走るようになって、体が丈夫になりました。そしてバドミントンや柔道を学び、心も丈夫になりました。今は保育園の先生をしています。

　目標を決めるとき、大切なことが３つあります。
　１つ目。「１０年先の自分の理想の姿を思い描いてください。」
　２つ目。「その理想の姿になるためには、今、何をしたらよいかを決めてください。これが目標です。」
　３つ目。これは難しいのですが、「その目標を達成した自分が、社会にどのような形で貢献できるかを考えてください。」
　　皆さんの頑張りを校長として、応援します。これから、どうぞよろしくお願いします。

ニューヨーク補習授業校　校長　青木　正彦

オアシス運動

　アメリカに来て約２か月になりますが、一番驚いたことは、「アメリカ人は気軽にあいさつができる。」ということです。私が住んでいるアパートでは、エレベーターの中や玄関で人に出会うと「こんばんは、こんにちは、さようなら、おやすみ、ワンちゃんかわいいね。」等、皆が必ず笑顔であいさつができています。
　私は英語が苦手で人見知りのため、当初、あいさつをされても返礼ができていませんでした。しかし、ある時、思い切って「おはようございます」と、元気よく相手の目を見て言いました。すると、私の心が躍っているのです。「この爽快さは何なんだ。」という言葉が溢れてくるのです。
　私は、あいさつとは、人と人の結びつきをスムーズにさせる潤滑油のような働きをしていると考えています。ゆえに、W 校でも LI 校でも、常にあいさつをしようと４月から努力してきました。

オ	おはようございます	**伊予弁（愛媛県松山市の出身）**
ア	ありがとうございます	＜だんだん＞
シ	失礼します（親切にします）	＜いんでこうわい＞
ス	すみません	何という意味でしょうか！



　保護者の皆様、幼児・児童生徒の皆様、
オアシス運動を積極的に推進していきたいと
思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。
　お子さんとあるいは保護者同士で、日本語で
あいさつをする習慣を身に付けていただくよう
お願いいたします。

ニューヨーク補習授業校　教頭　大塚　安彦